

広島訪問1日目

平成27年8月5日(水)

《行程》

被爆体験講話

【講師】大田金次さん

広島平和記念公園内見学

【ガイド】広島市観光ボランティアガイド協会(2名)

- ・原爆ドーム
- ・原爆の子の像(千羽鶴の奉納)
- ・原爆死没者慰霊碑(献花) ほか

広島平和記念資料館(自由見学)



被爆体験講話



< 講話をしてくださった大田金次さん >

< 概要と感想 >

広島訪問1日目は、まず、被爆者 大田金次さんのお話を聞きました。

大田さんは、現在75歳で、被爆した当時は5歳でした。広島1945年8月6日、天気は快晴、上空に戦闘爆撃機が襲来し、午前8時15分原爆が投下されました。現在の原爆ドームの周辺、高度580mで強烈な閃光をはなち、爆発しました。直径280mの火球から発生した放射線を含む熱線の波は爆風になり、半径2km以内の住民、建物などを焼きつくしました。

被爆体験講話



< 講話へのお礼の言葉 >

< 概要と感想 >

原爆投下時の大田さんは、母親と家を出るところでした。父親と弟は家の中にいました。

投下時、爆風により、大田さん、弟、母親は飛ばされてしまいました。気づいた時には、防空壕の中にいました。防空壕の中は暗いので、名前を呼び合って探しました。そして、防空壕から出ると、父親が柱に足を挟まれていました。母親が柱をどかし、父親は柱から抜け出すことができました。

大田さん一家は、爆心地から約900mのところにあっても関わらず、家族全員生きていました。

原爆ドーム



< 原爆ドームの現状 >

< 概要と感想 >

講話後は、広島平和記念公園内の見学です。

原爆ドームは大正4年、広島県物産陳列館として完成しました。建物はレンガ造りの3階建てで、正面中央部分は5階建て、その上にドームが載せられていました。その後、広島県産業奨励館と改称しました。

この被爆した原爆ドームは、今でこそ、世界遺産に登録されていますが、戦後は被爆の悲惨な思い出に繋がることから取り壊しを望む声が多くあったそうです。しかし、被爆で亡くなった楮山ヒロ子さんの日記に、「原爆ドームだけが恐るべき原子爆弾を後世に訴えかけてくれるだろう」と記されており、その言葉に心を打たれた人々の運動により、保存工事が決定されました。

千羽鶴の奉納(原爆の子のために...)



< 千羽鶴奉納の様子 >

< 概要と感想 >

2歳の時に被爆した佐々木禎子さん。

10年後、白血病を患い、入院している時、「折鶴を千羽折ると元気になる」と信じ、一生懸命折りましたが、願いは叶わず亡くなってしまいました。

彼女の死を惜しんだ同級生たちが、彼女を含む原爆で犠牲になった子どもたちのために、「原爆の子の像」を建てました。

私たちは、彼女たちのために、原爆の子の像で、市内の中学生が折った千羽鶴を納めました。もう、子どもが戦争に巻き込まれないことを祈ります。

原爆死没者慰霊碑に献花を



< 原爆死没者慰霊碑で献花をする様子 >

< 概要と感想 >

原爆死没者慰霊碑は、原爆で犠牲になった人への追悼の意を込めたものです。

犠牲者の名簿が入っている棺には、「安らかに眠ってください。過ちは繰り返しませぬから」と刻んであります。

アーチの中から向こう側をのぞくと、原爆ドームが見えます。

私たち22人全員で、一輪ずつ白いカーネーションを献花しました。

私たちが同じ過ちを繰り返さないように努めなければいけません。

広島平和記念資料館(原子爆弾の構造)



< 広島に投下された原子爆弾 >

< 概要と感想 >

広島平和記念資料館には、さまざまな貴重な資料が展示されています。

原爆の構造も詳しく展示されていました。

物質を構成している原子の中心にある原子核を人工的に壊すと、大量のエネルギーが放出されます。原子核が壊れることを「核分裂」といい、これがごく短い時間に次々と広がると、瞬間的に非常に強大なエネルギーを生み出します。このエネルギーを兵器として利用したものが原爆です。

広島平和記念資料館(遺品「お弁当」)



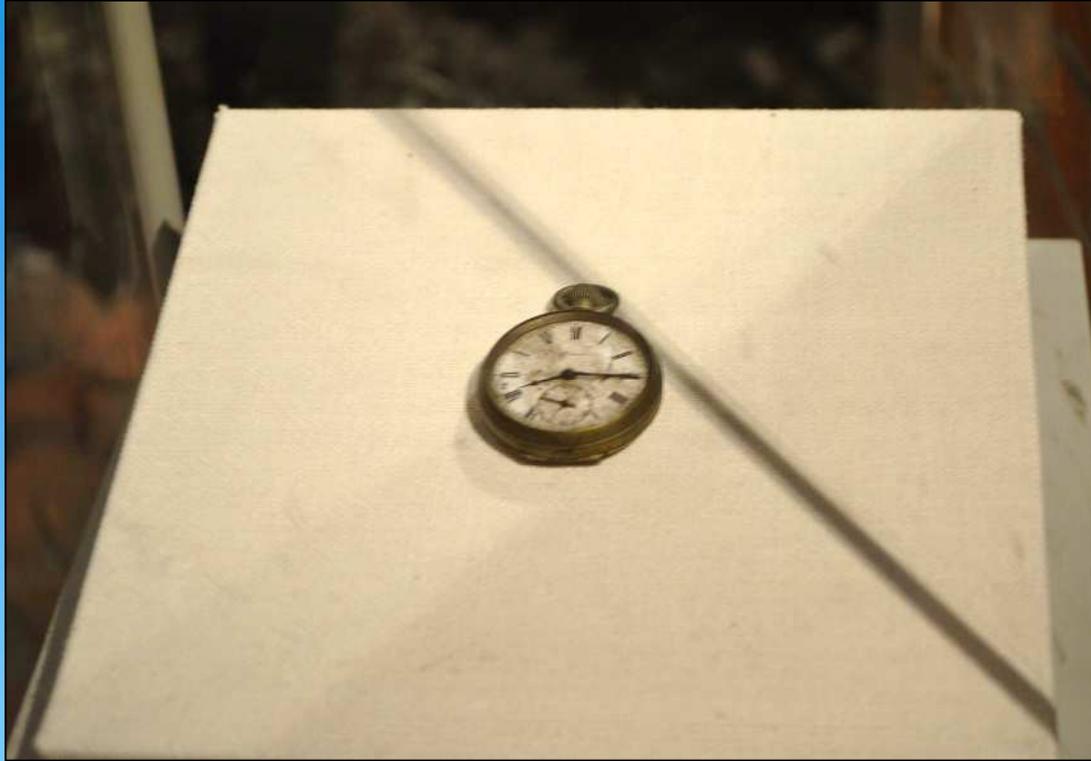
< 真っ黒なお弁当 >

< 概要と感想 >

このお弁当は、折免滋くんのもので、滋くんは、お母さんが作ってくれたお弁当を喜んで持って行きましたが、原爆により命を奪われました。その時に抱えていたお弁当です。

お母さんは、遺体の中からお弁当を抱えた姿の滋くんを見つけ、口に水を注いであげました。その後、庭に骨をまき、そこに白いアジサイを植えました。今では、毎年たくさんの花を咲かせています。このアジサイには、白米をお腹いっぱい食べさせてあげたいという、母シゲコさんの深い想いが込められているのです。

広島平和記念資料館(遺品「懐中時計」)



< 8時15分で止まった懐中時計 >

< 概要と感想 >

この懐中時計は、二川謙吾さんが息子からもらった時計で、肌身離さず持っていました。しかし、原爆によって被爆し、謙吾さんは8月22日に亡くなりました。懐中時計も8時15分を指して止まってしまいました。この時計が当時の衝撃の大きさを物語っているのです。

広島平和記念資料館(遺品「三輪車」)



< 三輪車 >

< 概要と感想 >

この三輪車は、持ち主のお父さんが、亡くなってしまった息子と仲の良かった友達と一緒に土の中に埋葬しました。

その後、土を掘り返すと、この三輪車が見つかり、2人の骨も見つかったそうです。その遺骨の手は固く握りあっていました。

お弁当、懐中時計、三輪車・・・
このように、遺品は原爆の恐ろしさを忘れ去られないように、被害の大きさを私たちに語りかけているのです。

広島平和記念資料館(人影の石)



< 人影のついた石段 >

< 概要と感想 >

写真を見て分かるように、被爆の怖さが分かる遺品が資料館にはたくさんあります。

この写真は、「人影」です。原爆の約4,000度を超える熱で、このようになってしまいました。人が座っていた部分だけが黒く焼け残り、このような“影の石”が作られました。

このようになる熱を、当時の人々は受けたのです。とても恐ろしく思いました。

広島平和記念資料館(人体への影響)



< 原爆爆発直後のきのこ雲 >

< 概要と感想 >

原爆が投下されて、大量の放射線が放出され、内臓などに致命的な被害を及ぼしました。爆発直後には、きのこ雲が立ち上がり、泥やチリなどが、上空に巻き上げられました。これらのチリやススなどは放射能を帯びており、空気中の水滴と混じり、雨粒となり、地上に降りました。これを「黒い雨」と言います。

広島平和記念資料館(2歳で被爆した禎子さん)



< 概要と感想 >

佐々木禎子さんは、2歳のときに被爆しましたが、無傷でした。その後は、リレーの選手になるなど、元気に生活を送っていました。

< 小学校入学時の禎子さん >

広島平和記念資料館(禎子さんと折り鶴)



< 禎子さんが折った折り鶴 >

< 概要と感想 >

小学校6年生の秋に体調を崩し、翌年に白血病と診断され、入院しました。

折り鶴を千羽折ると病気が治ると聞き、回復を祈り、折り続けました。写真は、禎子さんが実際に折った折り鶴です。

回復を祈り続けた禎子さんですが、1955年10月25日、12歳で亡くなりました。

広島平和記念資料館(原爆の子の像と禎子さん)



< 原爆の子の像 除幕式 >

< 概要と感想 >

禎子さんが亡くなったのを悲しんだ同級生たちが、原爆で亡くなった子を慰霊し、平和を守るための記念の像を造ろうと呼びかけました。その像が、「原爆の子の像」です。

禎子さんのお話は、たくさんの国で本にされ、伝えられています。